

大和・日本・JAPAN

第1期OB 柳川 政人

昨年のOB・OG会誌にて予告の通り、2015年4月の辞令で4年間駐在したシンガポールから東京本社に帰任しました。大学入学（1999年）以降、大学卒業（2003年）、転職（2007年）、転勤（2011年）とサッカーワールドカップの翌年に私にとっての変化が訪れてきましたが、自称「ワールドカップ翌年の男」のジンクスは2015年も継続されました。この法則に則ると次の変化の年は2019年に訪れることになります。2020年の東京オリンピックを私は何処で迎えることになるのか今からちょっと気になっております。

さて、今回は大袈裟ですが、我が国「日本」を振り返ってみたいと思います。私は1992年から6年半をアメリカ・ニュージャージー州で過ごし、2011年からの4年間をシンガポールで過ごしました。長期海外生活から日本に帰国するのは人生で2回目になりますが、2015年4月にシンガポールから帰国した際、真っ先に感じたのは、日本のご飯は安くて、美味しい！ということです。スーパー、コンビニ、居酒屋、ファミレス何処に行っても、値段とそのクオリティに感銘を受けました。4年日本を不在にしている間にクオリティは上がり、値段も消費税率が8%に引き上げられたにもかかわらず、僅かの値上げに留める企業努力は素晴らしいと感じました。素晴らしいと感じるのは良いですが、ほいほい買ってしまうのは良くないですね。

そんな美味しい「JAPAN」を求めて今日、銀座、築地、浅草、スカイツリーなどの観光地は中国人を始めとする多くの外国人が訪れ、街を賑わせています。10年前には想像出来なかった光景は、私の働く丸の内にも垣間見え、1度も外国人に遭遇せずに1日を過ごすことが非常に困難なほどです。

中国・アジア諸国在住者向け観光ビザの発行緩和により外国人観光客は増えましたが、受け入れる日本側は果たして外国人を受け入れる体制が整っているのか疑問に感じるものがしばしばあります。外国人が来訪を想定し、日本語、英語に加えて、中国語、韓国語が表記されていますが、その場で対応する方は当然の様に日本語での対応です。当然ながら、伝えたいことは伝わらず、その後ろには長蛇の列が出来てしまいます。列が出来ると割り込みする人が出てきて、これらの観光客に対して悪い印象を持つ日本人も出てくるでしょう。飲食チェーン店やコンビニの店員に中国人がコスト面から採用されているのだから、中国人が多く訪れる所に、中国人向け特設カウンターなどを設けて、中国人スタッフを配置すればより便利になるのではと思ったことは1度や2度ではありません。

流行語大賞にも選ばれた「爆買い」で、日本が潤うのは大変喜ばしいことではありますが、ホテルや空港での「おもてなし」は当然ですが、我々の日常に近いところでのおもてなしが出来なければ、観光客来訪は一時的ブームで終わってしまう恐れがあります。

仕事柄、外国人と会う機会が多々ありますが、数多くの方々から「日本は素敵な国だから是非行ってみたい」、「前回とは違う都市にまた行ってみたい」などと耳にし、日本人であることを大変誇らしく思えます。実体験やロコミで日本に対して良い印象を持った人達は日本へ来訪し、リピーターとして改めて日本

を訪れることでしょう。しかし、後味の悪い経験をしてしまった場合、恐らく再来日は見込めないと思います。

多くの観光客を輸送する為に観光バスが投入されていますが、バスの待機場所は数年前までと変わっておらず、バスを全て収容出来ず道に溢れ、路駐状態で道路を塞いでしまうシーンに遭遇したことも何度もあります。この浅草で見かけた光景は伝統ある街から日本人を遠ざけてしまう恐れもあります。上野・アメ横のとあるお土産屋の前を歩いていると、日本語の呼び掛けに加えて、中国語や英語が聞こえてきました。振り返ると店員のおじさんが日本語で呼び掛ける横でおばさんが流暢な中国語と英語で接客されていました。しかし、隣の鮮魚店ではオジサン店員達が「中国人は見るだけで、買って行かない」とぼやく声も聞こえてきました。外国人観光客をもてなすことも重要ですが、当然ながら我々日本人ももてなされなければなりません。非常に難しいさじ加減ではありますが、バランスを考えた上で変わっていかないと「日本」は真の意味で「JAPAN」になれないと感じた下町の光景でした。

変わることも大事ですが、今日の「JAPAN」が海外からの観光客を呼び込むことが出来るのは、「日本」の歴史が理由の1つであることも忘れてはなりません。歴史上「大和」と呼ばれた国は「日本」と呼び名を変え、英語では「JAPAN」と呼ばれています。昔を知る人々は「JAPAN」の変貌に違和感を覚える人も居るでしょう。しかし、時代の変化に対応しなければ、置き去りになってしまいます。産業は「日本」から「JAPAN」への変化に対応し、「JAPAN」は世界屈指の先進国に成長しました。今、我々は「JAPAN」の立ち位置を維持する時代を迎えているのでは無いでしょうか。

2020年に2度目の東京オリンピックが開催されます。素晴らしい「JAPAN」を披露することは将来の「JAPAN」にとって、大きな意味を持つことでしょう。その為に変わるべきこと、歴史・伝統を維持すべきこと、様々な意味を持つイベントが控えていると思っています。この歴史的イベントに関われることを私は大変興味を持っています。



イタリアから LNG プロジェクト向けモジュールを輸送する YAMATO

最後になりましたが、本題にある「大和」は、実は小生の現部署の商売道具です。「YAMATO」と言う船は甲板がフラットになっている特殊船です。この船は世界各国のLNGプロジェクト向けの輸送に従事しております。この「YAMATO」の仕事を簡単に説明すると、「洋上の駐車場にデッキジャングルジムを載せて運ぶ」お仕事です。時代の流れで残念ながら「YAMATO」はパナマ籍となっております。



YAMATOの乗組員と（後列左から2番目の白つなぎが著者）



最近の著者は、ご息子と一緒に仮面ライダーにハマっていらっしゃるそうです！